使用後について

使用済の消火器は、販売店に依頼し速やかに再充填するか新しい消火器を設置して下さい。絶対に分解しないで下さい。

廃棄されるときは、販売店へ連絡して下さい

不用になった消火器は事故防止のために、必ずお買い求めになった販売店か専門業者にお引き渡し下さい。

※分解、廃棄の処理には、費用がかかりますので有料処理となります。ご理解とご協力をお願いいたします。

製造元 株式会社 初田製作所

本社 〒573-1132 大阪府枚方市招提田近3丁目5番地

アフターサービスについて　消火器のご相談は各支社・支店又は販売店へ

お客様相談窓口　お問い合せ・ご相談はフリーダイヤルでどうぞ　0120-82-2041

電話受付時間 10:00～12:00, 13:00～16:00（土・日・祝日を除く）

北日本支店	TEL(022)232-4402
東京支社	TEL(03)5471-7411
中部支店	TEL(052)262-2581
関西支社	TEL(06)6473-4870
中四国支店	TEL(082)232-4484
九州支店	TEL(092)281-6287

販売店

取説106-0308W

取扱説明書

HATSUTA

加圧式 大型車載式

粉末消火器

国家検定合格品

大型車載式 粉末消火器　該当器種　●ストップ付　**DP-50・100N・150・200**

写真はDP-100Nです

このたびは、ハツタ消火器をお買い求めいただきまことにありがとうございました。ご設置、使用される前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しい設置、正しい使い方をして下さい。なお、この取扱説明書は大切に保管して下さい。

もくじ

各部のなまえ・構造図 …… 1
適応火災 …… 3
使用方法 …… 5
必ずお守りください
1.危険 …… 6
2.警告 …… 7
3.注意　設置上の注意 …… 8
使用上の注意 …… 9
使用後の注意 …… 10
使用後について …… 11
廃棄されるときは …… 11

株式会社 初田製作所

消火器は圧力容器です。取扱説明書をよく読んで正しくご使用下さい。

●取扱説明書では、ご使用上の注意内容を無視し誤った使い方をしたときに生じる危害、損害の程度を「危険」「警告」「注意」で表示しています。

⚠危険	取扱い上容器が破裂し重大な人身事故が発生し、「死亡または重傷などを負う切迫した危険状況を示す」内容です。
⚠警告	設置上及び使用上「死亡または重傷などを負う潜在的な危険状況を示す」内容です。
⚠注意	設置上及び使用上「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

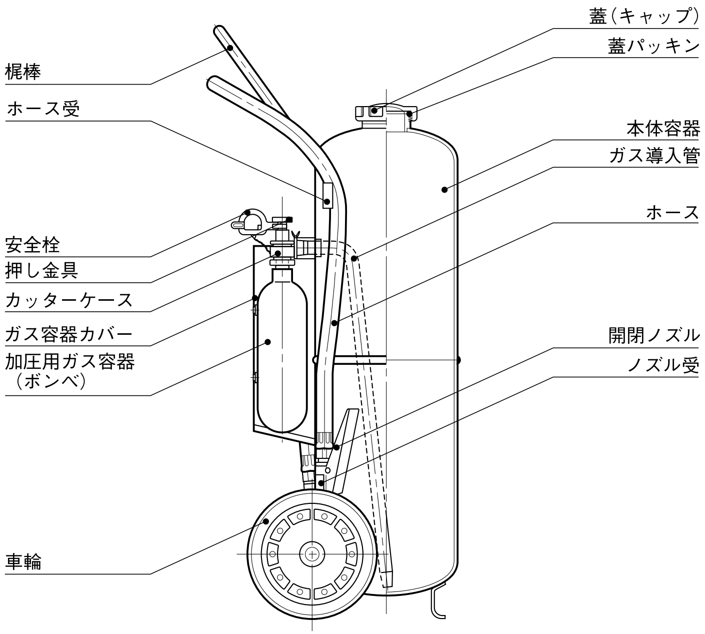
●消火器には適応火災と消火能力単位が表示されています。
適応火災はその種の火災に適していることを意味し、消火能力単位は規格基準に基づく消火単位を表示しているもので、これをもって実火災における消火規模を限定することはできません。

●消火器はあくまで初期消火に威力を発揮しますが、火災規模、状況等により、どんな火災でも消火できるとは限りません。
そのため、正しい使用法に基づいて消火器を使用したにも拘らず消火できなかったことによる人的、物的損害についての賠償の責はご容赦願います。

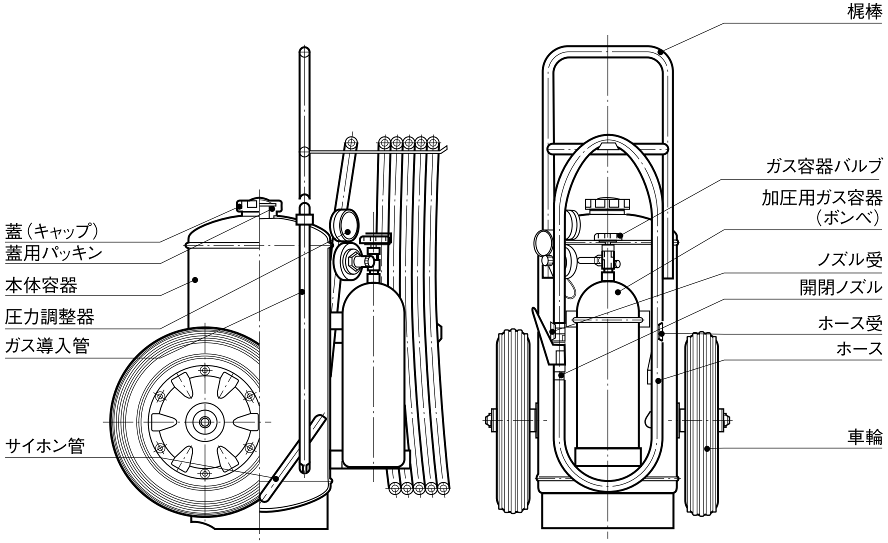
●万一、品質上の不具合により機能しなかった場合は当該消火器の無料修理または無料にて新しい製品とお取り替えいたします。
（但し、耐用年数を過ぎた消火器の無償交換はご容赦願います。）

各部のなまえ・構造図

50型（DP-50）ストップ付タイプ



100型（DP-100N）ストップ付タイプ



適応火災

この消火器は普通〈A〉・油〈B〉・電気〈C〉火災に適応します。
消火器本体容器のラベルに表示しています。

消火器には、適応火災を示す色マークが付いています。お求めの消火器が設置場所の予想される火災の消火に適した性能のものであるかご確認ください。

白色　**普通火災用**

普通〈A〉火災
●木材、紙、繊維などが燃える火災。

黄色　**油火災用**

油〈B〉火災
●天ぷら油、灯油、ガソリンなどが燃える火災。

青色　**電気火災用**

電気〈C〉火災
●感電の恐れがある電気設備器具などの火災。

●この消火器は車輪が付いていますので移動して消火できます。

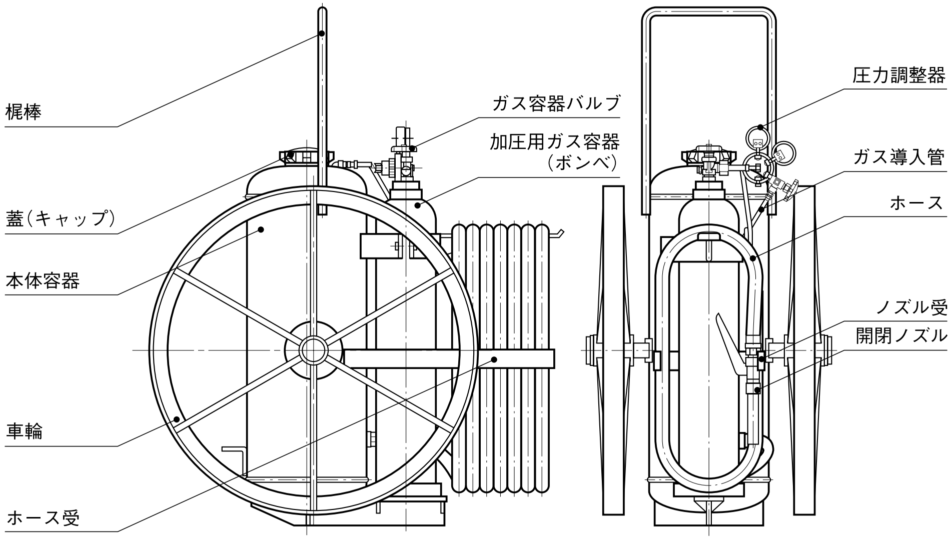
50型・100型・150型・200型・大型車載式消火器はストップ付タイプです。

（ストップ付は、一度放射させてもレバーから手を離すと放射を、途中で一時的に止めることができ有効放射が行えます。）

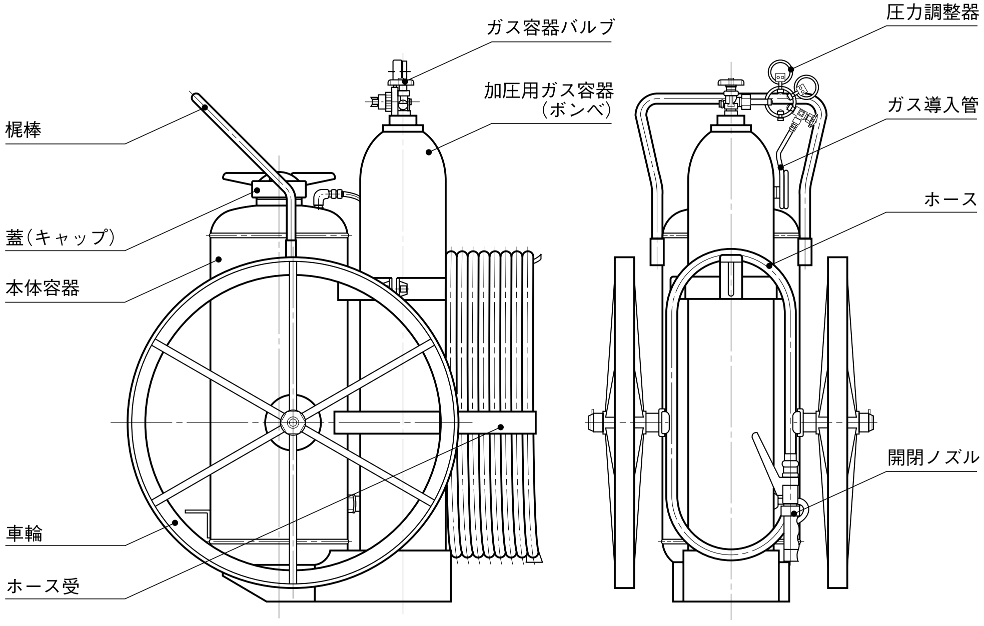
100型・150型・200型は、輸送時の保安のため、加圧用ガス容器（窒素ガスボンベ）はボンベキャップを取付け、圧力調整器、ガス導入管をはずし送付しています。
組立ては有資格者が行いますので、絶対に組立てないで下さい。

各部のなまえ・構造図

150型（DP-150）ストップ付タイプ



200型（DP-200）ストップ付タイプ



使用方法 消火器本体容器のラベルに表示しています。

•50型
(DP-50)

❶梶棒を手前に倒して移動する。

❷梶棒を起して消火器を垂直に立てる。

❸ノズルレバーを持ってホースをホース受けからはずして伸す。

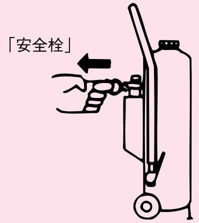
❹安全栓を引き抜く。

❺打金頭を手で強く押す。

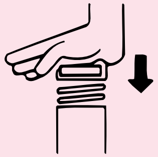
❻ノズルを火元に向ける。

❼ノズルレバーを強く握り、火元をはくようにして放射する。

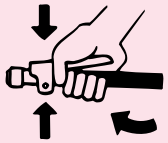
1 安全栓を引き抜く。



2 打金頭を手で強く押す。



3 ノズルを火元に向け
ノズルレバーを握る。



•100型・150型・200型
(DP-100N・DP-150・DP-200)

❶梶棒を手前に倒して移動する。

❷梶棒を起して消火器を垂直に立てる。

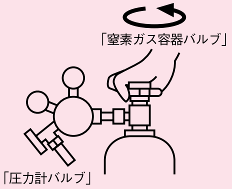
❸ノズルレバーを持ってホースをホース受けからはずして伸す。

❹ガス容器バルブを全開する。

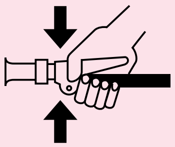
❺ノズルを火元に向ける。

❻ノズルレバーを強く握り、火元をはくようにして放射する。

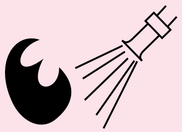
1 ホースをのばし、窒素
ガス容器バルブを全開。



2 ノズルレバーを握り。



3 火元をはくように消火。



※ガス圧力が本体容器内に充満してから、
ノズルレバーを握って下さい。

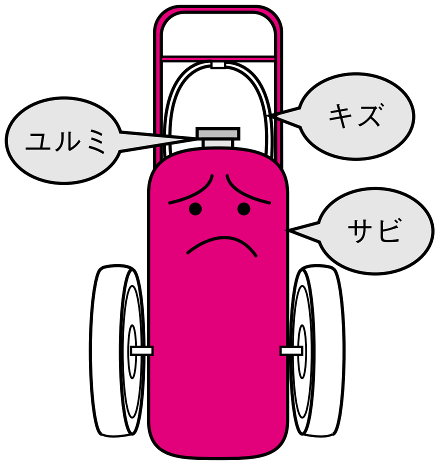
必ずお守りください

⚠危険

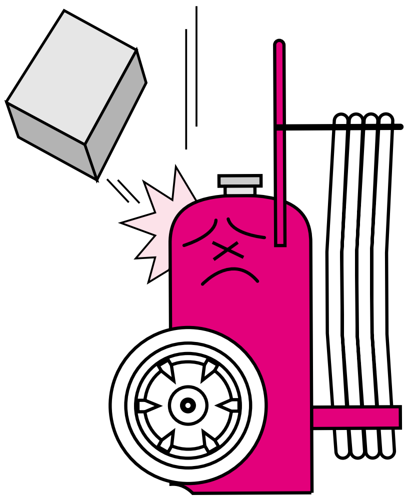
消火器本体容器の破裂等により人身事故発生の恐れがあります。該当する消火器は絶対に使用しないで下さい。また、取扱いは十分ご注意下さい。

1.サビ、キズ、変形（キャップのゆるみ）のあるものは絶対に使用しない

8年以内の消火器でも著しいサビ、キズ、
変形のあるものは、使用しないで下さい。



2.消火器は圧力容器です 強い衝撃を与えない

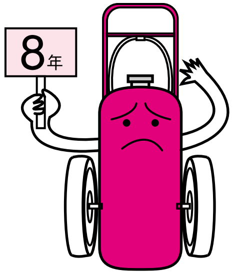


※消火器を廃棄される場合は必ず販売店、または、製造元にご相談下さい。

警告

1.製造年から8年の耐用年数を過ぎたものは使用しない

本体容器の破裂により人身事故発生の恐れがあります。8年以内のものでも設置環境により不良になる場合もあります。

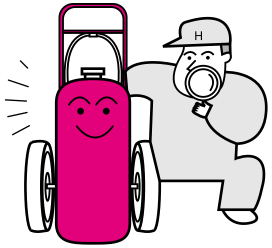


2.絶対に人に向って放射しない

呼吸困難や危害発生を招く恐れがあります。

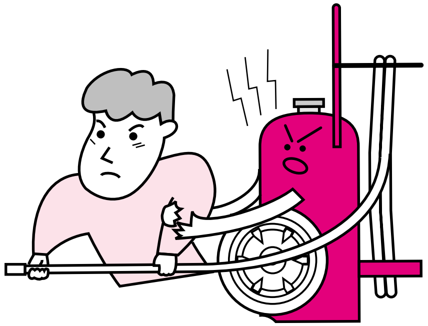
3.法で定められた点検を定期的に行う

6ヵ月に1回以上の点検を消防設備士等の資格を有する者に依頼して行って下さい。



4.ためし放射はしない

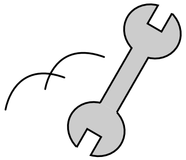
そのまま放置すると、使用できなくなります。



5.絶対に分解しない

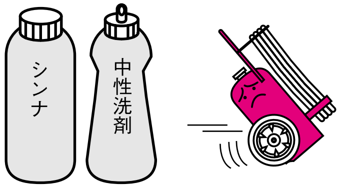
消火器のキャップ、ネジ部等を緩めたり、分解しないで下さい。

※有資格者以外は消火器の分解、補修等を行なわないで下さい。



6.消火器の清掃は、水洗いや有機溶剤（ガソリン、ベンジン、シンナー等）及び中性洗剤を使用しない

サビ、ホースの変質、消火薬剤の吸湿の原因になります。



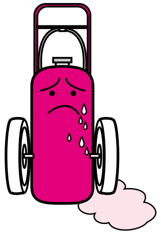
注意

設置上の注意

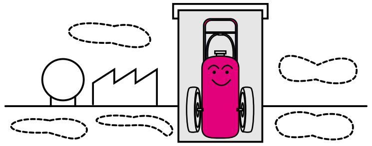
1.高温・多湿のところには設置しない

容器内圧の異常上昇、サビの原因になります。

- 直射日光の当たる場所・湿気の多い場所は、避けて下さい。



- 雨、潮風、風雪にさらされる場所や腐食ガスの発生する場所（化学工場、温泉地）では必ず屋根付格納箱に入れて下さい。



2.通行または避難に支障がなく、スグに持ち出せる場所に設置する

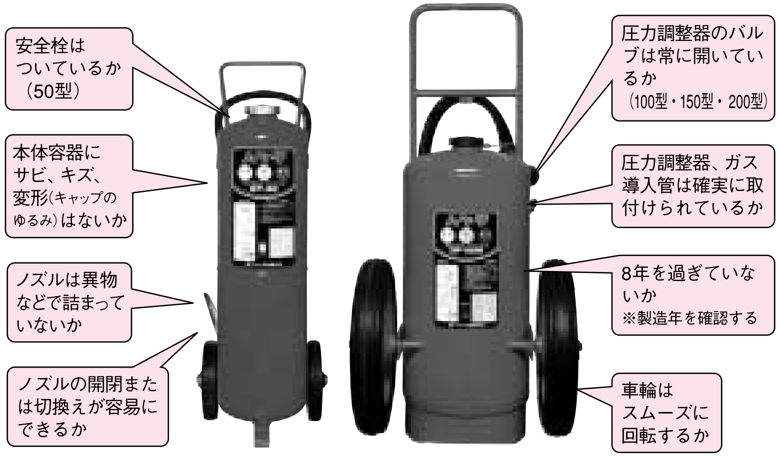
3.地震・ゆれ・振動で消火器が転倒・移動しないように設置する

4.消火器に表示されている使用温度範囲内の場所に設置する

使用温度範囲外で使用すると、消火できない場合があります。

6. 3ヶ月に一度外観を観察する

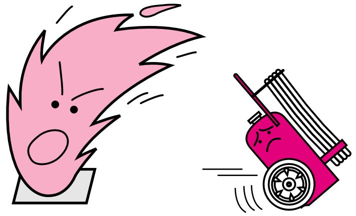
異常を発見した場合は、速やかに販売店に連絡し、整備等の処置をして下さい。



使用上の注意

1.消火器は初期消火をする器具です 消火範囲にも限度があります

火災の大きさ、消火開始の時期、適応火災の条件により消火できない場合があります。



消火に際して

- ムリな消火活動はしないで下さい。火災拡大の恐れがあります。
- 消火に際しては、逃げ道を確保して消火して下さい。
- 屋外での消火は風上より消火して下さい。

2.正しい使用方法で消火する

消火器本体容器のラベルに表示している使用方法に従って消火して下さい。

3.消火の際、火に近付き過ぎないようにする

消火開始時には、5m程度の距離を保ち、炎がおさまるにつれて接近して下さい。

4.ホースはしっかり握って消火する

ホースを手放すと放射方向が定まらず消火ができなくなります。

5.恐しい火災発生時のガス

火災による発生ガスは人体に有害です。
換気の悪い狭い場所での消火は注意して下さい。

6.粉末消火薬剤は大量に吸わない

粉末消火薬剤は人体に対して毒性はありませんが、大量の消火薬剤を吸い込むと、呼吸困難をおこす場合があります。

7.ホース、ノズルにキレツのあるもの、ノズルが離脱しているものは使用しない

使用後の注意

1.ガスが関連した火災ではガスの元栓を必ず締める

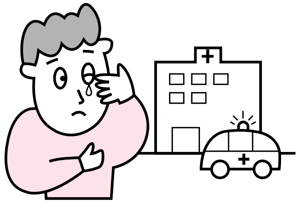
2.消火薬剤が身体にかかったり、目に入った場合

●身体にかかった場合

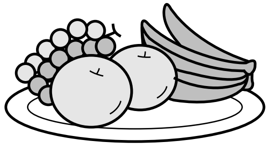
水洗い等をして十分洗浄して下さい。

●目に入った場合

速やかに水洗いし、充血、目の痛みを感じたら医師の診察を受けて下さい。



3.消火薬剤のかかった食物は食べない

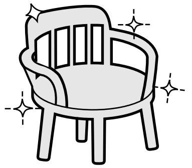


4.消火薬剤が器物にかかった場合

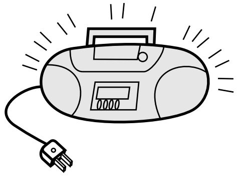
飛散した粉末消火薬剤は、掃除機で吸い取って下さい。

●器物は十分清掃して下さい

そのまま放置すると腐食等の変質をおこすことがあります。



●電気器具は、絶縁性を調べた後、通電して下さい



5.消火器を使用したら速やかに販売店に依頼し再充填して下さい